

IV 参考資料

研究報告会（H28.3.29 開催）で配布した資料

平成 27 年度厚生労働科学研究地域（医療基盤開発推進研究事業）

「内服薬処方せんの記載方法標準化の
普及状況に関する研究」研究報告会

平成 28 年 3 月 29 日

於：イイノホールカンファレンスルーム B

平成 28 年度厚生労働科学研究（地域医療基盤開発推進 研究事業）「内服薬処方
せんの記載方法標準化の普及状況に関する研究」研究報告会の開催にあたって

平成 17 年に医療安全対策検討会議において、「処方せんの記載方法等に関する
意見」が医政局長あてに提出され、その中で、医師、医療機関の間で処方せんの
記載方法等が統一されていないことに起因した処方せんの記載ミス、記載漏れ、
指示受け間違い等のヒヤリ・ハット事例や医療事故は後を絶たない状況にあり、
記載方法、記載項目の標準化を含めた処方せんの記載等に関する検討を早急に行
うべきとの指摘がなされた。このため平成 17 年度～20 年度に実施された厚生労
働科学研究で調査・検討がなされ「情報伝達エラー防止のための処方に関する記
載についての標準案」が示された。これを受けた形で平成 20 年～21 年に厚生労
働省医政局に「内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会」が設置され 5
回の検討を経て報告書が公開された。

本研究は報告書に記載された内服薬処方せん記載方法の標準化の普及状況や
標準化を阻害している要因に関してシステム面を含めて明確化することを目的
に実施されているものである。

本報告会は研究過程での調査結果を示すと共に、幅広い観点から、処方せん記
載の標準化をとりまく環境を報告すると共に、在るべき姿の 1 回量による入力シ
ステムをいち早く採用した医療機関から発表をいただくことで、普及のために何
が必要なのかについて意見交換をすることを目的に開催するものである。本報告
会が課題解決のための一助となれば幸いである。

研究代表者 国際医療福祉大学薬学部特任教授

土屋 文人

目 次

第1部 各種調査結果

学会等における参加者認識調査結果	1
医療機能評価機構ヒヤリ・ハット報告（医療機関・薬局）調査結果	5
最近5年間に新たに作成された添付文書における 用法用量の記載状況について	13

第2部 1回量入力を実施した医療機関からの報告

公益財団法人東京都医療保険協会 練馬総合病院	19
一般財団法人淀川勤労者厚生協会附属西淀病院	27
鳥取大学医学部附属病院・国立病院機構米子医療センター	33
徳州会グループ	39

【参考資料】

内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会報告書	45
----------------------------	----